

## 1.6.2 グラウト逸出対策

グラウト逸出対策として、アンカー体をパッカーで被覆する方法があるが、引張型（図 6.2.1）では、アンカー体に引張力が働くため、定着地盤との間に布等が介在すれば、引抜き抵抗の減少をもたらすことにつながる。

グラウト材がパッカー内から漏出し、孔壁と付着するから問題ないとする考え方もあるが、布材が消滅しない限りこの影響は避けられないとするのが妥当であろう。

ただし、実際には上記方法で所用の引抜き耐力が得られており、その解釈として、アンカー体の引抜き耐力が“付着”ではなく、孔壁の凹凸等に基づく摩擦や支圧等の抵抗を主体としているものと考えられる。この場合、これらは計算できない要素であることから、アンカー体の品質にはばらつきが生じやすいことが懸念される。

くさび型の場合は、くさび力が孔壁にほぼ直交する方向に作用するため、パッカー布の介在は問題とならない。ただし、布が厚ければその分アンカー体の変位量が大きくなるため、できるだけ薄い材質のものを使用する必要がある。

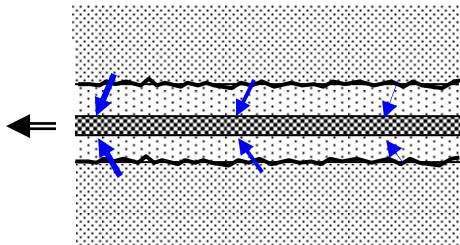


図 6.2.1 引張型

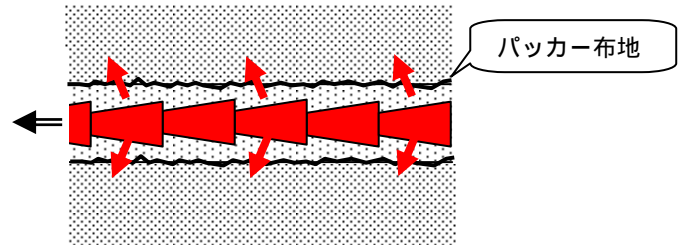


図 6.2.1 くさび型



写真 3.2.1 試験用アンカー体組立加工状況（300Ws 型）  
右：アンカー体拘束具とパッカー取り付け状況（標準タイプ）  
左：グラウト逸出対策として、アンカー体全体を布パッカーで被覆したものの